

わたしのお姉ちゃん

新見市立新見南小学校

三年 名 越 藍 理

わたしは三姉弟です。わたしのお姉ちゃんは、おしゃれでせが高く、やさしいけれど、みんなと少しちがうとくせいをもっています。そんなお姉ちゃんを、わたしは小学二年生のと中まで好きになれませんでした。何が好きになれなかつたかというと、じゅん番を守つてくれない、テンションが高くなつてしまふとあばれる、気分で聞いていないふりをする、同じ事を何回も聞いてくる、わたしのじこしょうかいを勝手にわたしの知らない人にすることです。なので、わたしのお友だちにお姉ちゃんを見られたり、会つたりするのがいやでした。

そんな時お母さんが、

「お姉ちゃんのうん動会を一しょに見にいこう。」

と言いました。お姉ちゃんが行つている学校はわたしが通つている学校とちがいます。山の上にあつて月曜日から金曜日まできしゅくしやといふ所にとまつています。わたしが二年生の時はじめてうん動会を見にいきました。いろんな人がいておどろきました。その中でお姉ちゃんは、先生がだれもつかずに一人で走つたりおどつたりきょうぎを

していました。家で見るお姉ちゃんとはぜんぜんちがつて、かつこいいと思いました。帰つてからお姉ちゃんに、

「すごくかつこよかつたよ。」

と伝えました。するとお姉ちゃんは、

「きてくれてありがとう。うれしかつた。」

と言つてギューとしてくれました。わたしは、お姉ちゃんがギューとしてくれたことがとてもうれしかつたです。

お母さんにいい事を聞きました。それは、相手のいやな所をよい事に言いかえてみるというものでした。お姉ちゃんのいやな所をお母さんと一しょによい事に言いかえてみると自分をしつかりもつて、集中力がある、こうき心がある、相手をとても信用していると言いかえる事ができました。お姉ちゃんがわたしのじこしょうかいをするのも、自まんの妹だからという事もわかりました。わたしは、お姉ちゃんの事が大好きになりました。

今では、お姉ちゃんがスムーズにお話ができずに相手に伝わらない時は、わたしが何とお姉ちゃんが言いたいのか相手に教えてあげたり、べん強で分からぬ所や読めない所があれば、わたしが教えたり、読んだりしています。わたしは、お姉ちゃんが、

「ありがとう。」

とえ顔で言つてくれる事がとてもうれしいです。

これからもお姉ちゃんがこまついたら、一番に助けてあげたいです。

「これからもよろしくね。お姉ちゃん。」